

第1回日向市都市計画マスタープラン・立地適正化計画改訂委員会

議事要旨

件名	第1回日向市都市計画マスタープラン・立地適正化計画改訂委員会
年月日	令和7年10月17日（金）14：57～16：36
場所	健康管理センター 2階 多目的ホール
出席者	別紙配席図のとおり
内 容	<p>1. 開会・挨拶</p> <p>2. 委員紹介</p> <p>3. 委員長選出</p> <p>4. 議事</p> <p>(1)計画の概要・改訂目的について 意見なし。</p> <p>(2)市民アンケート結果の報告</p> <p>委員長 P8 の Q3 について、今後引っ越したい意向について、どのあたりの年代の声が多かったのか教えていただきたい。</p> <p>事務局 年代別クロスについてはまだ整理できていないが、回答者の属性としては高齢者の回答割合が多い傾向にある。このあたりを踏まえて、分析を改めてお示しする。</p> <p>委員 P27-28 の市街化調整区域の設問について、居住地クロスをかけて傾向を見させていただきたい。</p> <p>事務局 次回お示しさせていただく。</p> <p>委員 P7 の Q3 について、7割程度が住みたいと答えているが、市街化区域と市街化調整区域のどちらに住まわれている方の回答であるかは把握できるのか。</p> <p>事務局 Q1 でお住まいの区域を聞いていたため、クロス集計することで把握することが可能。次回お示しさせていただく。</p> <p>(3)現状と都市づくりの課題整理</p> <p>委員 挙げていただいた課題についてはどれも重要であると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存集落の再生と持続可能な生活環境の確保については、市街化調整区域の既存集落では、いろんな開発が抑制されていて、人口的には、市街化調整区域と都市計画区域外に市全体の約 2割の方が住んでおり、大変重要なと思う。だ

	<p>が、もう1つ重要なのが、居住推進区域（都市再生特別措置法に規定する「居住誘導区域」）について、都市計画区域内であっても人口が比較的減りづらいところと誘導施策が欠かせないところは人口の減り方が違ってくると思う。既存集落の過疎化の問題は、市街化区域の中のコミュニティについても考える必要があるが、事務局ではどう考えているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前復興を踏まえた安全な土地利用の実現は、大変重要だが、一方で、水面下でのリスクでいうと、埼玉県八潮市で下水道の老朽化で陥没が起き、近隣住民の生活に支障が出たように、日向市も道路や上下水道の老朽化問題が出てくる。都市基盤の老朽化は課題の中で、どう位置づけられているのか、教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市街化区域の中でも一定の区域に人口密度を高めていこうとしているが、現在、調整区域や都市計画区域外の集落もある。市人口の8割にあたる4万人が市街化区域内に住んでいるが、農林業の方々は、田畠などの周辺部に住み続けるなど、生業に合わせた居住環境で、いろいろな方が住み続けることが必要である。そのため、すべてを市街化区域に集約させるという意味ではないが、調和を図りながら、いかに誘導していくかを考えていきたい。 ・上下水道管等の老朽化対策にも目を向けて計画の中に加えたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校区の見直しが議論されていると思うが、学校教育課等との議論はされているのか。都市計画との整合性は図れているのか。できれば高校も含めて、学校区も考慮して、都市計画を議論していただきたい。 ・課題（4）について、既存集落とはどこを指して言っているのか。イメージができない。具体的な地区名を上げていただけないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスターplanとは別で、立地適正化計画を議論する時に、学校の立地条件等も整理し、居住推進区域として、結果を反映している。教育委員会においても学校再編計画の議論が進んでいるため、立地適正化計画を通して見直しが必要かもしれない。教育委員会の動きと並行しながら検討していただきたい。 ・既存集落とは、延岡・門川・日向が都市計画を定めた際に市街化調整区域に含まれていた集落を指定している。
委員	旧東郷町は既存集落ではないのか。また、旧東郷町の集落の再生に関する内容はこの計画に含まれるのか。

事務局	既存指定集落という表現にしておらず申し訳ないが、市街化調整区域の既存集落を指す既存指定集落のことを意味して、既存集落と表現している。また、都市計画マスターplanは、都市計画区域内のことを主に扱う計画のため、旧東郷町について詳しく計画内で触れる事はないが、考慮した上で計画の改訂を行いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化について、対象となるエリアは明確なものがあるのか。 ・既存集落の過疎化とは、どのようなデータを基に過疎化と言っているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化については、中心市街地活性化法ができた時に、日向市は先んじて平成11年1月に中心市街地活性化計画を策定した。その後、法律の改正を経て、内閣府から正式に中心市街地活性化計画の承認をいただいた。その計画の更新は今も行っており、日向市駅を含む約50haを対象に中心市街地活性化区域としている。その区域を中心に空き店舗対策事業等を行い、市民を交えてまちの賑わいを活性化する取組をしている。 ・既存集落の過疎化について、行政の中で過疎化の声を聞くのでこのような表現をした。
委員	<p>中心市街地のエリアを示す資料があればわかりやすいと感じた。</p> <p>人口減少による過疎化についても細かなデータの分析は可能か。</p>
事務局	人口については、前回の立地適正化計画において人口メッシュ分析をしている。図表等は省かせていただいているが、議論になっている中心市街地や既存集落等の細かい部分も考えていく上では参考にしなければならない。うまく示しながら現状をわかりやすく伝えられるデータを準備していきたい。
委員長	資料3の「(5)防災・事前復興を踏まえた安全な土地利用の実現」について、日向市は被災の可能性が高いエリアに企業が集中している。企業の存続について、企業を対象とした意向調査等は予定されているのか。都市計画マスターplanに限らず、企業関連の部署と連携をしていかないと、事前復興のシミュレーションができないのではないか。
事務局	産業や企業誘致を担当する部署と関わり合いがある。企業を対象としたアンケートやヒアリングは行いたいと考えている。事業所や工場を高台に移したいという個別の相談はある。継続して、現状を確認していきたい。

委員長	港湾関係で何かご意見は無いか。
委員	最大クラスの津波が来た場合、復旧が困難な防波堤について対策工事をしているところである。また、救援物資等の輸送に影響するため、被災後の復興・復旧に対して必要な耐震強化岸壁などのハード整備やソフト対策も進めている。今後も情報共有を図っていきたい。
(4)将来都市構造について	
委員長	防災拠点を新たに位置付けるとのことだが、南海トラフ地震の新たな想定では、被害が増えるとされている。日向市の場合、沿岸部に津波を受けると都市機能が停滞すると思われる。そのため、都市機能は内陸部等に求めないと都市の持続可能性やその後の復興に問題が出てくるのではないか。拠点のバックアップや相互互換をどう位置づけているのか。
事務局	拠点の整理を行いながら、マップの見せ方、配色・デザインもブラッシュアップしていきたい。 道の駅とうごうや美々津の道の駅日向周辺が、防災時、物資の物流拠点として向いていると思う。体育館を建設されている大王谷運動公園辺りについても、ヘリポート等の防災機能として位置付けて良いのではないか。 例えば、日常はスポーツレクリエーション拠点としている場所であっても、被災時は防災拠点として機能できるようなイメージをしながら計画として整理をしていく必要があると考えている。
委員長	見やすい図面になると頭が整理しやすい。また、この委員会での議論の成果が、将来的に形になるような表現は必要だと思う。
	5. 今後のスケジュール
	6. 閉会